

科目名	応用行動分析学特論	担当教員	松崎 敦子
科目属性	専門科目 C	単位数	2 単位 (面接 0.5 単位)
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>【授業概要】 この授業では応用行動分析学の基本的概念を確認した上で、「関係フレーム理論」を理解し、ヒトの行動を変容させる方法を考えます。そして各々が臨床場面で関わる対象者やその家族の問題を機能的・文脈的観点から分析し、その問題に対応するためのアプローチ方法を考えます。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 応用行動分析学の基本的原理を理解する。 2. 応用行動分析からみた言語と認知：関係フレーム理論を理解する。 3. 臨床場面で体験している（した）対象者やその家族の問題を、機能的・文脈的観点から理解する。 4. 対象者やその家族が問題に対応するためのアプローチ方法を論理的に導き出す。 			
<p>【授業計画】</p> <p>全 15 回の授業計画は以下の通りです。</p> <p>第 1 回：認知・行動療法，行動的心理療法，機能的文脈主義についての概要</p> <p>第 2 回：問題を行動のカタチ（形態）から捉える</p> <p>第 3 回：行動を観察する</p> <p>第 4 回：文脈の中で行動を捉える</p> <p>第 5 回：レスポナント条件付け</p> <p>第 6 回：オペラント条件付け（1）</p> <p>第 7 回：オペラント条件付け（2）</p> <p>第 8 回：関係フレームづけ（1）</p> <p>第 9 回：関係フレームづけ（2）</p> <p>第 10 回：ABC 分析を応用する</p> <p>第 11 回：機能分析と行動変容に向けての会話</p> <p>第 12 回：3 つの原理と実践をつなぐ</p> <p>第 13 回：実践の原則（1）</p> <p>第 14 回：実践の原則（2）</p> <p>第 15 回：行動分析学で考える言語行動と学習、そして私たちの日常</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（レポート方式；50%）を総合して評価します。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>ユーナス ランメロ/ニコラス トールネケ著、松見淳子監修、武藤崇/米山直樹監訳（2010 年）「臨床行動分析の ABC」日本評論社（ISBN-13：978-4535983007）</p>			
<p>【参考図書】</p> <p><応用行動分析学の基本を学ぶ></p> <p>杉山尚子/島宗理/佐藤方哉/リチャード W マロット/マリア E マロット著（1998 年）「行動分析学入門」産業図書（ISBN-13：978-4782890301）</p> <p>レイモンド G ミルテンバーガー著、園山繁樹/野呂文行/渡部匡隆/大石幸二翻訳（2011 年）「行動変容法入門」二瓶社（ISBN-13：978-4861080258）</p> <p><応用行動分析学の応用を学ぶ></p> <p>芝田寿美男著（2017 年）「臨床行動分析のすすめ方—ふだんづかいの認知行動療法」岩崎学術出版社（ISBN-13：978-4753311231）</p> <p>ジョン ベイリー/メアリー バーチ著、澤幸祐/松見淳子翻訳（2017 年）「行動分析的“思考法”入門 生活に変化をもたらす科学のススメ」岩崎学術出版社（ISBN-13：978-4753311224）</p> <p>ニコラス トールネケ著、山本淳一監修、武藤崇/熊野宏昭監訳（2013 年）「関係フレーム理論（RFT）」</p>			

を学ぶ」星和書店 (ISBN-13: 978-4791108626)

ラス ハリス著、武藤崇監修・翻訳、岩淵デボラ/本多篤/寺田久美子/川島寛子翻訳 (2012年) 「よくわかる ACT(アクセプタンス&コミットメント・セラピー) 明日からつかえる ACT 入門」星和書店 (ISBN-13: 978-4791108190)

ラス ハリス著、岩下慶一翻訳 (2015年) 「幸福になりたいなら幸福になろうとしてはいけない: マインドフルネスから生まれた心理療法」筑摩書房 (ISBN-13: 978-4480843074)